

## イラン伝統音楽のラディーフ——その再定義にむけて——

谷 正人

本論文は、イランの伝統音楽においてラディーフ（「列、並び続く」の意）と呼ばれる旋律群の伝承に基く音楽習得の過程を詳細に検討する事により、従来なされてきたラディーフの定義に新たな視点を付け加えることを目的としたものである。

ラディーフという旋律群は、伝承現場ではその徹底した暗記が求められる一方で、実際の演奏にはラディーフがそのまま用いられるわけではない。よって従来ラディーフを定義するのに用いられてきた「規範性」「モデル」といった概念は、「素材」「基本形」「骨格」といったキーワードでもって捉えられてきた。

しかし実際に、ラディーフの徹底した暗記段階から、ラディーフを離れた演奏段階へと至るまでの音楽習得の過程を丹念に追ってゆくと、そこには前述のキーワードとは単に併記することのできないある別の「規範性」の存在が浮かび上がってくる。それはラディーフという旋律群を構成するグーシェの時間的配列についての規範性である。グーシェとは「角、隅」を意味する比較的小単位の旋律であるが、個々のグーシェには、そうした配列を維持するための機能的側面を見出すことができる。その機能により、全体として一定の配列を組織化すべく個々のグーシェの演奏は規定されるのである。

本論文ではこれを、グーシェ相互間の関連において存在する「機能的規範性」と名付け、「素材」「基本形」「骨格」といった視点からの規範性、すなわちグーシェを単独で捉える規範性とは区別した。そしてこの「機能的規範性」への気付きを手掛かりとして、ラディーフは単に「規範」というよりは「規範解釈の一例」であるとの結論を導き出す。その上でさらに、こうしたラディーフの「規範解釈の一例」という属性は学習者をして新たなラディーフを生成させる要因として延々と作用し続けていることをも本論文では示す。